

公園・遊園地におけるその他の起因物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労働 者規 模
2	10~11	<p>衣装を装着しないリハーサルで、ウォーミングアップしていた時、靴下の状態で、音楽に合わせて前屈をしながら屈伸をするストレッチを2回ほど行い、足を伸ばした際に左膝の裏側からブチッという音がして痛みが発生した。（動きは特に勢いをつけたりすることなく、通常通りの力加減である。ウォーミングアッププログラムは約8分間で、開始より5分ほど経過した際にこのような動きが盛り込まれている。）</p>	28	10000 ～
3	18~19	<p>全身に衣装を装着し、全5回のうち4回目のステージショーに出演中、「客席からステージに向かって階段を上がり、キャラクターボイスに合わせてセリフを言った直後、移動しながら決まったタイミングで手を挙げ、両足でジャンプ（約20cm）する」振りで、両足での着地時に右ふくらはぎに痛みが発生した。その後、動きを軽減し出演を継続したが、最後のシーンで足を引きずるほど悪化し、講演終了後すぐにアイシングを実施した。5回目公演は、代役を立てて出演をカットし、自力での帰宅が困難だったため、タクシーで帰宅した。</p>	43	10000 ～
3	19~20	<p>衣装を着用しないステージショーのリハーサルで右に移動しながら両手を上げ、左足でジャンプする振りで、左足で踏み込んだ際、左ふくらはぎに痛みが発生した。それまで4年間在籍していたステージでは、5cmのヒール靴で2.7度の傾斜のあるステージで踊っていた。現在のステージでのリハーサルが開始となり、フラットなステージでヒールなしでの踊りは、環境に慣れておらず、ふくらはぎに通常以上の負荷がかかった。</p>	33	10000 ～
4	11~	<p>衣装を着用しパレードに出演中、「右足を軸に右回転し左足重心でポーズをとる振り」で、右足を軸に勢いよく回転し、左足重心でポーズを取った際、左足太ももからふくらはぎにかけ強い痛みが発生した。発生後、左足に体重がかけ</p>	28	10000

	12	られない程の痛みがあった為、振りを軽減し、最後まで出演した。公演終了後、足を引きずって歩行する状態だった。		～
4	12～ 13	全身に衣装を装着し、ステージショーに出演中の着替えで、衣装のレギンスを立った状態で脱ぎながら前屈みに約45度腰を曲げた際、腰に痛みが発生した。	21	10000 ～
5	16～ 17	全身に衣装を装着し、全3回のうちの1回目の出演中、台詞の終わりに、「前屈みし顎を引いた状態から、上を見るように、首と腰を反らせた」際、腰に痛みが発生した。その後、振りを軽減し最後まで出演したが、1回目公演後に早退した。帰宅後に痛みが悪化し、歩行困難な状況となった。	34	10000 ～
5	9～ 10	全身に衣装を装着し、ステージショーに出演中、首を左右に2回振る内の1回目に左を向いた時、左側に座っている出演者と、目を合わせようと通常の動きで左下に頭部を傾けた際、右肩甲骨から首にかけピキッと引っ張られた感覚が発生した。痛みはなかったので、アイシングを行い、出演を継続した。（違和感や悪化なし）後日起床したところ、首に痛みが発生した。	25	10000 ～
7	22～23	全身に衣装を装着し、ステージショーに全公演出演後、退勤のため、建屋を出てすぐの階段を下りている際、左足を着いた時に左膝に違和感・痛みが発生。通常歩行ができる状態だったため、左足を庇うように歩きながら帰宅。アイシングとマッサージを行った。以降、コンディショニングルームを利用し様子を見ながら出演を継続。後日ステージショーにて「ボーボールを床面に叩きつけながらしゃがんで静止し、その後勢いは付けずに立ち上がった」際、左膝に強い痛みを感じた。	28	10000 ～
7	10～11	1回目終了後に次回ショーの準備を行うため、機材置場に向かい歩いている途中、女性ゲスト（2人組）とすれ違った際、突然左肩を殴られた。女性ゲストとの距離はお互いが難なく通行できる程度の幅は空いていた。	24	10000 ～
9	17～ 18	衣装を着用し、ステージショーに出演中、男性ダンサーとのペアダンスで、「お互いに片手で握り合い体重を後方にかけ、その後引っぱり合って近づく振り」で、相手の引っ張りが強く、首だけが後ろに残ったまま、身体だけが前に出てしまい、首に痛みが発生。その後痛みはあったが、動きを軽減しながら、	36	10000 ～

		最終回まで出演した。		
9	11～ 12	被災者は場内の厨房において、皿うどんの調理中に、あんをお皿に盛ろうとした際バランスを崩し、あんをこぼした、その際に、あんが跳ね返り顔にかかった、氷で冷やす処置を行い、病院を受診したところ火傷と診断された。	46	1000 ～ 9999
11	9～ 10	被災者は、倉庫内作業にてトートと呼ばれるピッキング作業時に使用する容器をハンドフォークを使用して各エリアを巡回しながら搬送・補充する作業に従事していた。狭い通路の角を曲がる際、搬送物を壁に強打させてしまい、その振動が腕にまで伝わり痛みが発生し、作業困難となった。	34	10000 ～
11	11～ 12	階段で一人でうどん1袋を持ち運んでいる途中、踏み外して転げ落ちた。	25	10000 ～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html